

ついに当局は値上げに踏み切るも、庶民の怒りは募る

白濁、褐色は当然で、重金属汚染も深刻 国民に毒を配る「沸かしても飲めない水道水」

中国の水不足をより深刻にするのが、上下水道設備などインフラの貧弱さだ。

*

中国を訪れたことがある人なら、蛇口やシャワーから出る水の異臭を感じた経験があるだろう。世界の水問題に詳しいジャーナリストの橋本淳司氏が解説する。

「特徴的なのは塩素の匂いが非常に強いことです。水源の汚染度が高いため、消毒に多量の塩素が使われる。一般市民はそのまま飲んでいますが、富裕層は浄水器を取り付けたり、ミネラルウォーターを飲むのが当たり前になっています。北京で一般住宅における水道水の実態調査をした際には、白濁した水が出てくる事例がありました。日本のメーカーが中国向けの浄水器を開発しようとしたところ、水道水にこり成分や有機物が大量に含まれていました。そこで日本で売っている商品より濾過

材を強化する必要がありました」

蛇口をひねれば茶色の水が出てくることは珍しくない。

上海に駐在する日本人ビジネススマンが語る。

「ヤカンで煮沸して飲んでいたので、1年ほど経つとヤカンの底にバリバリとした

何かが厚くこびりついて使えなくなっていました。怖くない」

水道水には人体に有害な重金属などが含まれる事例も多い。11年8月には、江西省で銅精錬工場の排水が水道管に混入し、近隣住民100人以上が中毒症状を訴えた。

上海では13年に入ってから当局が水道の蛇口から鉛などの金属が溶出しているとの調査結果を発表。当局は水栓器具の金属溶出量について強制力のある新基準の作成に動いている。

中国では地方政府が設立した事業会社が上下水道事業を運営する。90年代以降は世界の水メジャー（ヴェオリア、スエズ、テムズウォーター）をはじめとする企業群が北京、上海など主要都市の一部で給水と汚水処理事業に

本誌編集部

出資、参入してきたが、それでも水質をはじめとする問題の解決は容易ではない。

「民間資本の活用によって浄水場などの建設ラッシュが起きました。それを運用する水道管理の技術者が足りないのです。政府は生活雑排水な

どを生活用水に変える下水再生処理施設の新設にも力を入れています。処理された水量は施設の能力の20%程度です。その原因は人材不足です」（橋本氏）

貧弱な上下水道インフラは、水不足に拍車をかける。

中国の主要都市における水道管の漏水率は20%を超えているとされ（東京は約3%）、貴重なはずの水が使われもせずに垂れ流されている。

その対応を含め設備投資ばかりが増えているため、水道料金が続々と値上げされる見込みだ。自治体国際化協会北

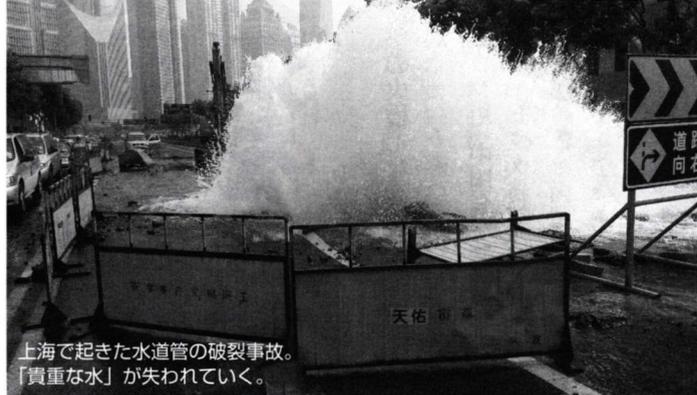
京事務所所長補佐時代に中国の水道事情を調査した経験のある中司弓彦氏はこう語る。「主要都市の水道料金は1㎡あたり1・3〜2・8元（約21〜46円）で、東京の3分の1から8分の1程度でしたが、四川省成都市で10年6月から0・35元値上げされ1㎡あたり2・5元に改定されるなど、近年は値上げが相次いでいます」

料金の値上げが節水につながるという見方もあるが、ことはそう単純ではない。

「水道料金を値上げしても富裕層は影響を受けない。節水を訴えても中国では『節』という文字に爪の先に火をともし暮らしのようなイメージがある。消費こそが美德であり、節約は経済成長を妨げる悪習と考えられていて、それは水についても同じ。北京では健康ランド、スパが近年増えている、富裕層は文字通り湯水の如く使う生活を改めようとしていない。低所得層の不満が募るばかりです」（橋本氏）

水不足解消の最終手段が「貧乏人は水道を使うな」という考えだとすれば、今度は怒った庶民が立ち上がり、共産党政権を揺るがしかねない。

Imaginechina/AFLD



上海で起きた水道管の破裂事故。「貴重な水」が失われていく。